

# 現代中国における小学校社会科授業論の改革

— 北京師範大学出版社版「品德と社会」教師用指導書の分析を通して —

宛 彪

(2013年10月3日受理)

A Study on the Instructional Theory Reform of the Elementary Social Studies  
in Modern China

— Through analyzing the social studies teacher's guidebook developed  
by BEIJING Normal University Publishing Company —

Wan Biao

**Abstract:** The curriculum standards for elementary social studies of China which is published in 2002, showed that “inquiry learning, experience learning, problem-solving learning” is the most important ways to study morality and society (Chinese elementary social studies textbook). On the instructional theory reform of China, there was a lot of new method for social studies which is introduced from Japan or U.S.A. The aim of this paper is the following three. 1) to analyze the example lesson plans which is used by the new method in the teacher's guidebook developed by BEIJING Normal University Publishing Company; 2) to show what is the feature of the instructional theory in the teacher's guidebook; 3) to see what has changed in social studies and show the significance of the instructional theory reform of modern China.

Key words: Instructional Theory Reform, Inquiry Learning, Experience Learning,  
Problem-solving Learning, Morality and Society

キーワード：教育改革，体験学習，探究学習，問題解決学習，品德と社会

## 1. はじめに

### 1.1 問題意識

中国において、1982年に出された「教学大綱」<sup>1)</sup>は、習得すべき知識を定め、1990年代応試教育の中心となり、暗記主義の隆盛を引き起こすことになってしまった。中国国家教育部によって行われた「小中学生の学習方法に関する調査」<sup>2)</sup>では、1990年代の義務教育段階の主な教授・学習方法は、受動的な接受式方法であったことを明らかにしている。このような単一的で、受動的な学習方式のため児童・生徒にとっては面白くない授業、興味をひかない授業、負担が重いと感じる授業となっていた。これらの事実、児童・生徒の創造力および実践能力の育成にとっても、大きな課題に

なっていた。このように、伝統的な応試教育のため受動的、単一的な学習方式を変革しなければならないという課題意識が、20世紀末には生まれていたと考えることができる。

このような教育課題を克服するために、2001年「基礎教育改革綱要」の発表に伴い、素質教育改革が始まった。それに基づく新課程標準や教科書の作成において、児童・生徒の自主的な学習が提唱されるようになってくる。このように、素質教育改革は、単なる授業改善の方法ではなく、授業論の改革ともいえるものであった。2002年版小学校「品德と社会」課程標準<sup>3)</sup>の中では、「体験学習」「探究学習」「問題解決学習」が中国社会科学の重要な教授方法として提唱されている。このように中国における素質教育改革の推進に伴い、従来

に比べ、様々な新しい社会科授業方法が提唱されてくる。

## 1.2 研究の対象と先行研究

北京師範大学出版社版「品德と社会」教科書（以下「北京版教科書」と略記する）は、課程標準の編集者たちによって作成されてきた最初のモデル教科書である。同出版社の教師用指導書の付録では、授業改善の方法として「体験学習」「探究学習」「問題解決学習」を取り入れていることが示されている。この教師用指導書は、これらの学習方法の採用を通して、授業論改革を意図した代表的なものとなっている。

本稿では、北京版教科書及び教師用指導書を取り上げ、これらの新しい社会科授業論について、以下の3点を中心に明らかにしていきたい。

- ① どのように授業に取り入れられているか。
- ② どのような特質を持つものであるのか。
- ③ それらはどのような意義を持つものであるか。

これらに答えようとする先行研究には、大きく2つのタイプがある。

第1は、単なる紹介研究である。沈曉敏（2005）論文では、教科書の編集者として、公民意識や公共意識を育成する観点から上海科学教育出版社版「品德と社会」教科書の編成原理や狙いを詳しく紹介している。また、近年、日本に留学している中国留学生によって、中国の社会科に関する紹介が試みられている。許芳（2007）論文では、上海市の小学校「品德と社会」教科書の内容を中心に紹介している。

第2は、授業構成の改革を中心に考察した研究である。代表的なものに、蔡秋英による新総合社会科の内容構造を解明しようとした研究がある。蔡秋英（2008）論文では、「思想政治教育」から「公民教育」へという視点から、中国における社会系教科教育課程改革の全体像について内容編成を中心に明らかにしようとしている。特に2003年までの社会系教科の内容編成理論を系統的に整理した歴史的な研究である。

本研究では、以上の先行研究と異なり、課程標準や教科書の分析にとどまらず、教育改革の視点から、教師用指導書の中にある授業計画までも分析の対象とし、その背後にある授業論の特質とその意義を明らかにしようとするものである。

## 1.3 分析の方法

本研究では、以下の手順と方法で行う。

- ① 「北京版教科書」を取り上げ、その内容構成を中心に分析することを通して、教科書の全体構成と編成原理を明らかにする。また、教師用指導書から「体

験学習」「探究学習」「問題解決学習」の典型的な授業例<sup>4)</sup>を抽出する。

- ② 「体験学習」の典型的な授業例を取り上げ、問いと知識の構造を中心に分析を行い、その特色を明らかにする。
- ③ 「探究学習」の典型的な授業例を取り上げ、同様の視点から分析を行い、その特色を明らかにする。
- ④ 「問題解決学習」の典型的な授業例を取り上げ、問いと知識の構造を中心に分析を行い、その特色を明らかにする。
- ⑤ 最後に②③④を通して、現代中国小学校社会科の授業論の特質をまとめると同時に、その今日的な意義を明らかにする。

## 2. 北京師範大学出版社版「品德と社会」の構造

表1で示しているように、北京版教科書は、小学校第3～6学年の児童を対象に、各学年上下巻で、全8冊から構成されている。第3、4学年は、主に家庭、学校、児童が住んでいる地域社会、故郷を中心に学習する。第5、6学年では、自国、世界の内容を中心に展開している。

このように、「品德と社会」の内容編成は、社会生活に必要な人間関係、社会規範、法律、制度などにおける社会的価値と時間、空間、文化、自然、環境などの社会的な事実を総合的に取り上げ、個人、家庭、学校、地域社会（故郷）、国家、世界と同心円的に拡大して児童・生徒のすべての生活領域にわたり組織されている<sup>5)</sup>。

すなわち、「品德と社会」の編成原理は、同心円拡大原理であると言える。それは、従来の網羅主義的教育内容に比べ、特定テーマを深く学習し探究することができるようになっていく。

## 3. 「体験学習」による社会科授業

### —主題「障害者を援助する」の場合—

### 3.1 「体験学習」授業例の概要

北京版教科書の3学年（上）第3単元「私たちの生活」は、人々の交流や相互理解に関して学習する単元である。この単元は、「一緒に生活する人々」「私達の生活を支える人々」「お爺さん、お婆さん」「障害者を援助する」という4つの主題から構成されている。

異なる生活環境を持っている隣人の関係から、人々の親切的な関係を理解する。一緒に暮らしている人々とは、矛盾が発生する可能性を知り、その時の相互理解と道

表1. 北京版教科書の内容構成

	単元名	主 題		単元名	主 題
第三学年上	第1単元 暖かい家	1. 私は成長した 2. 両親は私を育てる 3. 私は物心がついた 4. 毎日健康に暮らす	第五学年上	第1単元 我々の祖先	1. 文明の光 2. 偉大な発明 3. 偉い賢者
	第2単元 楽しい学校生活	1. 私の友達 2. 勉強することが大好き 3. 私達のクラス 4. ルールを守ろう		第2単元 可愛い祖国	1. 我々の祖国 2. 長江と黄河
	第3単元 私たちの生活	1. 一緒に生活する人々 2. 私達の生活を支える人々 3. お爺さん、お婆さん 4. 障害者を援助する		第3単元 我々の大家族	1. 多民族の大家族 2. 炎帝と黄帝の子孫の願望
第三学年下	第4単元 私たちが生活している地域の話	1. 我々が生活しているところ 2. 皆さんの需用 3. 地域は皆の協力が必要	第五学年下	第4単元 私は小さい主人だ	1. 集団の榮譽を守ろう 2. 小さい主人になろう
	第5単元 私たちが成長する地域	1. 移動している画板 2. 合作を楽しみに 3. 地図は絵である		第5単元 歴史から分かること	1. 統一から隆盛まで 2. 野蠻(乱暴)と文明
	第6単元 周りの商店を見ましよう	1. 家の日常的買い物 2. 様々な買い物の場所 3. 買い物の学問		第6単元 人民の英雄に敬意を表する	1. 国辱を忘れずに 2. 覚悟した中国人 3. 光榮の歷程 4. 黄河はごうごうと荒れ狂う 5. 中国人は立ち上がった
第四学年上	第1単元 美しい故郷	1. 高い山から故郷を望む 2. 地図から見た故郷	第六学年上	第1単元 健康に成長する	1. 誠実と信用 2. 節約は家伝の宝物 3. 成長の楽しみと悩み
	第2単元 故郷の物語	1. 展覧室にある物語 2. 故郷の物語		第2単元 新中国を建設する	1. 立ち上がった中国人 2. 労働者の光榮
	第3単元 故郷、私の誇り	1. 故郷から祖国を見よう 2. 故郷の伝統 3. 文明、富裕な故郷を作るために		第3単元 飛躍する中国経済	1. 春の物語 2. 国家の主人 3. 世界の舞台にある中国
第四学年下	第4単元 土地は我々を育てる	1. 人類は土地で耕作する 2. 希望を与える土地 3. 農業は人類文明の揺りかご	第六学年下	第4単元 永遠の願望	1. 20世紀の戦争風雲 2. 平和の世界に向かって 3. 正義、調和がとれた社会のために
	第5単元 時間・空間を越えた生活	1. 通信技術と生活 2. 道は伸びている 3. マルチメディア世界		第5単元 地球は美しい	1. 地球は人類共同の家である 2. 世界を見よう 3. 地球のガードマンになろう
	第6単元 安全健康するように生活する	1. 生活中的交通安全 2. 火災を防止する 3. 健康、文明の生活		第6単元 成長の記録	1. 成長中の新しい問題 2. 道徳のある公民 3. 中学に進学しよう

徳的な意義を理解する。次に、周りの様々な業者と労働者を観察し、彼らの労働と自分の生活との関係を考えさせ、他者、労働者に対する尊敬の態度を形成させる。最後に、模擬・体験活動を通して、老人や生活障害者を尊敬する、あるいは愛する態度を育てる。このように、認識範囲を拡大し、異なる環境で生活している人々、特に同級生の生活をも関心もち、幸せな生活を大切にしようとする単元である。

ここで取り上げるのは課題4「障害者を援助する」

である。

1時間目の「障害者に親しむ」では、児童は、目、足、耳が不自由な人々の生活（以下①～④の活動）を模倣することを通して、障害者たちの不便な苦しい生活を体験する。そのことを通して、生活するために健常者が考えられないように努力していることを理解させるのが1時間目の授業である。

①片手でコートを着ることを模倣する。

②布を目に被って、目標に向かって歩く。

③手話を使って、他人と交流する。

④杖について歩くことを模擬する

2時間目「毎日が障害者援助の日」では、毎年5月19日の「障害者援助の日」に、自分が住んでいる地域で行われてきた障害者の援助活動について討論する。それを通して、児童の障害者に対する尊重意識、関心を高める。

さらに、障害者専用の公共施設を観察し、小学生は、どのように障害者を応援するのかを討論する。障害者への応援はわずか1日に限られたことではなく、毎日でも援助すべきであるという主題に対応している。

### 3.2 「体験学習」授業例の分析

#### (1) 問いの構造

本単元は、図1のような問いの構造になっている。単元全体のMQは「障害者に対してどのように考えるか」である。Q1「障害者はどのような人間であるか」、Q2「障害者の生活はどのようなか」、Q3「障害者はどのように努力して生活しているのか」、Q4「我々はどのように障害者を応援するのか」という単線的な問いの構成である。このように、本単元問いは主に「どのように、どのような」の発問である。

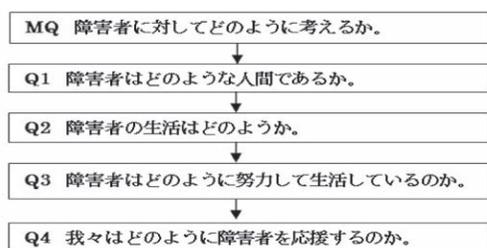


図1. 「障害者を援助する」の問いの構造

#### (2) 知識の構造

知識の構造は、図2のようになる。まずは、A1「身体のある部分に障がいがある人間を障害者という」から、障害者の生活に関心を導く。次に、A2「身体障害者の生活は非常に不便である」、A3「障害者が健常人のように学習、生活、働くためには、一般の人が考えられない困難を克服している」。

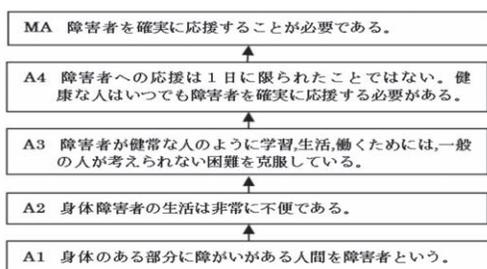


図2. 「障害者を援助する」の知識の構造

考えられない困難を克服している」によって障害者の生活を見童・生徒に体験させる。最後に、A4「障害者への応援は1日に限られたことではない、健康な人はいつでも障害者を確実に応援する必要がある」を通して、MA「障害者を確実に応援することが必要である」という知識を習得するような構造になっている。

#### 3.3 「体験学習」授業例の特色

以上に考察した「体験学習」の授業例の特色は、以下の3点であると考えられる。

第1に、「体験学習」は、児童の生活経験から始まり、学習活動は主体的な模擬活動を中心に行われていることである。

第2に、「体験学習」は、「どのように、どのような」という形式の問いが用意され、それに答える活動を中心に展開していることである。

第3に、障害者の生活の中の不便な場面を取り上げ、それを共感させるようになっていることである。このような追体験活動を通して、障害者に対する同情心や援助する意識など正しい態度を形成させるようになっている。

## 4. 「探究学習」による社会科授業

### —主題「人類は土地で耕作する」の場合—

#### 4.1 「探究学習」授業例の概要

4学年(下)第1単元「土地は我々を育てる」は、「人類は土地で耕作する」「希望を与える土地」「農業は人類文明の揺りかご」という3つの主題から構成されている。

探究学習の授業例は、主題「人類は土地で耕作する」である。本主題は、「大根の物語」「種蒔きから収穫まで」「ニュニュの困惑」という3つの課題から構成されている。

ここで取り上げるのは課題「種蒔きから収穫まで」である。「種蒔きから収穫まで」は、以下の6点の授業目標が設定されている。

- ①農業生産には、季節的な特徴があることと、農業の生産の周期は長くて、農期に準ずることが大切であることを理解する。
- ②我々の祖先が長期的な生産実践の中で総括して得た24節気を理解する。
- ③農業生産には地域性があることを理解する。地域によって栽培に適切な農作物には、規則性がある。
- ④農業労働を尊重するとともに、我々の祖先による自然規則を理解した偉大な創造を誇りに思う態度を形成する。

- ⑤我が国の領土の広さを知り、農業発展の歴史は長く、農産物の種類と数は非常に豊富であることを理解する。  
 ⑥土地は、人類に豊富な食物を提供し、人類の生存を保障してくれていることを知る。我々を育ててくれている土地に敬意を払う。
- 課題「種蒔きから収穫まで」の具体的な学習過程は、表2に示しているとおりである。

表2. 「種蒔きから収穫まで」の学習過程<sup>6)</sup>

<1 時間目>			
過程	主な問い	活動	学習内容
導入	・前回の授業では、虎の子の大根の物語の中で毎年の3月初旬の栽培から、5月末の収穫までが、大根の生産に最も適切な時期であることを理解した。このように生産することで、いい収穫が得られた。これはなぜでしょうか。	・ 討論	・一年の中で、特定な時期の日当たりと温度こそ農作物の成長に適切である。
展開 I	・日当たりや温度と農作物にはどのような関係があるのか。 ・本地域でよく栽培される作物の時間と季節はいつなのか。	・問題解決、討論 ・ 調査	・特定な季節では栽培に適切な種類の農作物があるという自然規則がある。
展開 II	・教科書で虎の子の話を読み、教科書の4枚の絵と共に、討論を行う。 ・実際の生活体験に合わせて、四季はどんな温度と天気の特徴があるのか。 ・どうして一年で農業生産は4つの段階に分けられるのか。	・ 討論 ・ 討論 ・ 教師はまとめる	・農村では一年間の中で「春は種を蒔き、夏は管理、秋は収穫、冬は暇」という過程を理解させる。 ・春はだんだん暖かくなって…種蒔き。夏の烈日で植物は勢いよく伸びている…中耕、除草、畑の管理を行う…秋は…農民は豊かな労働成果を持って、豊作の喜びを味わい楽しんでいる…寒い冬になったら、来年の農業生産を準備して期待している… ・四季の異なる時期の日当たりと温度は作物の種蒔き、成長、成熟などの異なる成長段階に適している。これらの異なる段階によって、農業生産の異なる段階になっている。
展開 III	・我々の祖先が四季の自然規則と変化によって農期を決め、一年間の24節気をまとめた。 ①宿題 ①公歴カレンダーを使って、節気を覚える。24節気と我々の日常生活の関係を理解する。 ②農作物の由来を調べる。	・教師の説明 ・ 児童を第2段の本文や表を読み解く ・ 教師はまとめ、24節気の子を学び、歌う。	・冬小麦、トウモロコシ、や胡瓜の種蒔き、生長、収穫は節気の固定した時間であることを理解させる。3つの植物の具体例…… ・24節気は公歴と固定的な繋がりがあ。例えば、春分は毎年の3月21日、夏至は6月22日、秋分は9月23日、冬至は12月22日。毎年変わらない公歴は、地球と太陽の間の運動関係によって作られたものである、農業の24節気は公歴とのはっきりした対応関係がみられる。我々の祖先は素晴らしい。 ・24節気は、我々の日常生活にも関連している。
<2 時間目>			
過程	主な問い	活動	学習内容
導入	・私たちが毎日食べている食物は、全部自分たちの地域で生産されたものではなく、その一部は他の外部から運ばれた商品である。それはなぜか。	・教師の説明 ・ 討論	・農作物の栽培は季節のみに関係しているだけではない。一つの地域ですべてのものが植えられているとはいえない。
展開 I	・あなたが知っている土壌や気候が異なる作物にはどのようなものがあるのか。 ・児童に探究を導く： ・なぜ南のほうでは小麦を生産しないのか。水稲は北のほうにもあるが、どうして南により少ないのか。 ・農作物に対してどのような要素が一番重要なのか。	・全クラス討論 ・ 中国地図を読み解く。 ・ 教師は補充的に説明する。	・一部の農作物は高温、強い日光が好き。例えば、水稲、サトウキビなど。 ・一部の農作物は暖かい環境が好き。例えば、小麦、綿花。 ・一部の農作物は砂地が好き。例えば、落花生。 ・一部の作物は土壌や気候条件への要求は高くない。例えば、トウモロコシなど雑穀はどこでも植えるものである。 ・農作物の成長は幾つかの適切な条件が必要である。その中で、日光、温度、水分、土壌などの要件が最も重要な条件である。土壌や気候条件によって、農作物の地域的な分布には一定の規則がある。 ・我が国の農作物の分布状況を理解する。

展開 II	<p>・我々が住んでいる地域ではどんな作物を栽培することに適切なのか。</p> <p>・毎日食べている食物の産地はどこか。地元産は何か。地元産のものの割合はどのくらいか。</p> <p>・教科書 10 ページで、小麦、トウモロコシ、サトウキビ、大豆、リンゴ、落花生などを示した図を観察する。これらの主食、野菜、果物はどこからはこばれてきたのか。</p>	<p>・討論と探究活動</p>	<p>・討論を通して、以下のことを明確させる</p> <p>現在人類が栽培している食糧、野菜、果物などの作物は、基本的に全部野生の植物から長い年代をかけて、選択して育成したものである。</p>
終結	<p>・教科書 10 ページの本文を読んで、児童に課題を深く理解させる。</p>	<p>・教師は探究活動を評価し、宿題を出す。</p>	<p>・宿題</p> <p>商店や市場で販売している食物、野菜、果物の産地を調べ、どのぐらいは地元で生産したのか、どうして本地域がこのような作物を植えることに適切なのか。</p>

## 4.2 「探究学習」授業例の分析

### (1) 問いの構造

本単元の問いの構造を示せば、図 3 (右) のようになっている。本単元の MQ は、「なぜ中国の農産物は、このように分布しているか」である。中国における農業分布の原因を探るために、その下に SQ 1 と SQ 2 が設定されている。具体的には、自然要素と地域要素に分けられている。前者は、SSQ 1～SSQ 3 で大根の事例、日光、温度、四季の特徴などの一連の問いで農作に影響している自然要素を導かせる。後者については、SSQ 4 と SSQ 5 の問いで、農業分布の地域的な要因を明らかにすることになる。

### (2) 知識の構造

以上の問いの構造に対応して、本単元の知識の構造を示せば、図 4 のようにまとめることができる。SSA 1～SSA 3 では、「大根に適切時期」「特定の時期の日当たりと温度が農作への影響」「農作の自然規則によって形成した24節気」などの知識によって SA 1 を支えている。

一方、SSA 4 「農作物の栽培は季節だけに関係していることではなく、地域の条件にも関係している」

と SSA 5 「南の方の温度は高すぎ、湿度も高く、小麦の成長に適切ではない」のような事実的な知識の習得によって SA 2 を支えている。

最終的に SA 1、SA 2 に基づいて、MA「農作物の成長は幾つかの適切な条件が必要である。その中で、日光、温度、水分、土壌などは最も重要な条件であり、土壌や気候条件によって、農作物の地域的な分布は一定の規則性がある」ことを明らかにした。

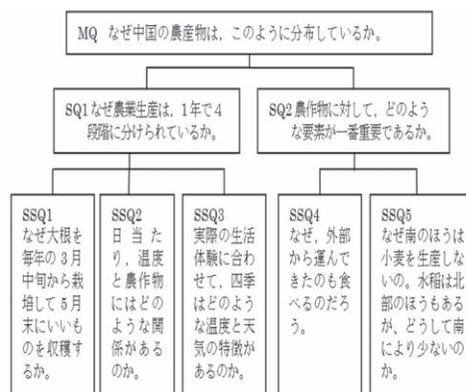


図3. 「種まきから収穫まで」の問いの構造



図4. 「種まきから収穫まで」の知識の構造

#### 4.3 「探究学習」授業例の特色

課題「種まきから収穫まで」の授業例の特色は、以下の3点にまとめることができる。

第1に、小単元のMQは、主に「なぜ」のような探究的な問いとなっていることである。したがって単元全体探究的な授業展開となっていると考えられる。また、単元全体の知識の構造と問いの構造は一致している。

第2に、知識の構成については、地理学における農業分布論のようなより質の高い社会諸科学の成果が取り入れられていることである。中国の農業分布の特色から、その背後にある地理学や農学の科学的な法則を児童に身につけさせようとしている。

第3に、授業の形態については、単元全体が写真の読み解き、事前調査、全クラス討論、発表など、児童に思考・判断を求める主体的な学習活動が取り入れられていることである。このことは、児童の学習意欲を高めるとともに、思考・判断・表現力も育成しようとしていると考えられる。

### 5. 「問題解決学習」による社会科授業

—主題「地球のガードマンになろう」の場合—

#### 5.1 「問題解決学習」授業例の概要

6学年（下）の第5単元「地球は美しい」は「地球は人類共同の家である」「世界を見よう」「地球のガードマンになろう」という3つの主題から構成されている。

問題解決学習の授業例は、主題「地球のガードマンになろう」である。本主題は、主に「地球は誰のもの」

「水の危機」「緑を種まき、希望を種まき」「生活中的ゴミ」「空気を浄化して、環境を保護する」という5つの課題から構成されている。

本主題は、教師指導用書では「問題解決学習」の典型単元として示されている。本主題の学習を通して、児童は「人類は地球の主人公ではない、それは、他の生物と共有するものである」を認識し、「人類は、積極的に環境を保護し、自然との関係をよく処理することこそ、本当の持続可能な発展が実現できること」を自覚させるような内容である。

ここで取り上げるのは、課題5「空気を浄化して、環境を保護する」である。具体的な学習過程は表3のようになっている。この課題は、大気汚染問題に関する知識を理解する上で必要な批判的な思考能力を高め、汚染問題を多角的に考えさせ、初歩的に持続可能な発展の思想を理解させることをねらいとしている。

1時間目では、テレビ番組でよく使われている空気汚染のレポートから問題を提起し、大気汚染源の小テストを行い、「1930年ベルギーのムーズ川谷煙・雲事件」、「1943年アメリカ西南部ロサンゼルス化学煙・霧事件」の本文を読み解き、大気汚染の危害を理解させる。この後、汚染問題を討論させる。特に自家用車の普及に関わる大気汚染について、車の利便性と汚染の2つの側面から児童・生徒に討論させ、児童の批判的考え力や意思決定力を高める学習過程となっている。

2時間目では、野生動物保護地、自然保護区、砂漠の整理、植樹活動などの学習を通して、児童が持続可能な発展の工夫を討論させ、そのような意識を形成しようとする学習過程となっている。

表3. 「空気を浄化して、環境を保護する」の学習過程<sup>7)</sup>

〈1時間目〉											
	主な問い	活動	学習内容								
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本地区のテレビ番組では、大気汚染のレポートがあるか。</li> <li>・みなさんはこのような報告をよく見るか。表を作成して、自由に記入する。</li> <li>・現在多くの地方テレビ番組は、毎日、本地区の「空気の品質」を発表している。この用語は、みなさんは必ずどこかで聞いたことがある。しかし皆さんは、具体的な内容がわかるのか。これらの指標は、どのように出てきたのか。我々の生活にどのような関係があるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気汚染の源に関する知識</li> <li>・環境保護常識テスト                     <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td>汚染源</td> </tr> <tr> <td>呼吸器を侵害する粒子状物質</td> <td></td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄(SO<sub>2</sub>)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>窒素酸化物(NO<sub>2</sub>など)</td> <td></td> </tr> </table> </li> </ul>		汚染源	呼吸器を侵害する粒子状物質		二酸化硫黄(SO <sub>2</sub> )		窒素酸化物(NO <sub>2</sub> など)	
	汚染源										
呼吸器を侵害する粒子状物質											
二酸化硫黄(SO <sub>2</sub> )											
窒素酸化物(NO <sub>2</sub> など)											
展開1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十年前、そのようなレポートはほとんどなかった。現在は、テレビ番組、ラジオ、新聞などで報道されるようになってきている。それなぜか。</li> <li>・どうして以前より空気の汚染問題に関する関心が高くなっているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読むと理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、人類は環境に対する関心が高くなっている。</li> <li>・教科書 p. 62 の本文「1930年ベルギーのムーズ川谷煙・雲事件」、「1943年アメリカ西南部ロサンゼルス化学煙・霧事件」を読んで、大気汚染の危害について理解する。</li> <li>・大気汚染問題は、厳しくなっている。</li> </ul>								

展 開 2	・教科書では、大気汚染の原因は、我々の日常生活に関連していると書かれている。工業は、人々の衣食住に関わっている。冷蔵庫・エアコンは、基本的にすべての家族に普及している。中国では、自動車産業も急速に発展している。人間は、豊かで便利な生活が必要であるが、新鮮で綺麗な空気や健康な体も大事なことである。これらの矛盾について、我々はどうしたらよいか。	・議論	・家庭乗用車をもっと増やすかどうかについて、討論する。  賛成側：家庭乗用車を増やす方がよい。 反対側：家庭乗用車を増やさない方がよい。
展 開 3	・今日のテストはよくできている。皆さん、我々が住んでいる地域の空気汚染は、どうであるか。主な汚染源はどこからきているか。 (教師は適当に補充・説明する。)	・議論  ・宿題 親や大人に持続可能な発展について聞き取り調査を行う。	・以下の考え方を児童に認識させる。 ・発展と進歩は、必ず様々な問題をもたらす。大気汚染は、その1つである。しかし、人類の歴史は、逆戻りすることはできない。古代では、汚染はなかったが、その時代には、牛車や馬車しかない。現代人はもう、車などが無い生活が考えられない。一方、人類は何も考えずに、空気を汚染したら、いつか高い代価を払わなければならないことになる。 ・もし、空気が呼吸できないほど汚染されたら、我々の生活は、どうなるのかを考えよう。人類は、知恵がある動物である。前に向かって進歩し続ける同時に、自分の行動をも制約するべきである。現在は、大気汚染問題の防止や改善は、もう少し進んでいる。皆さんがその問題をよく考え、将来は必ずいい改善策を見つけるべきである。このような考えは、大気汚染だけではなく、他の環境問題も同じであると考えよう。

<2 時間目>

	主な問い	活動	学習内容
導入	・持続可能な発展については、どのくらいわかっているのか。	・発表	・宿題の報告
展 開 1	・教科書 p.64 の本文や写真を読み解き、実際の状況に基づいて我々が知っている自然災害を討論しよう。	・自由討論	・人類の自然災害に対する認識は、限られている。このような惨劇を避けることでできない。しかし、人類の努力によって、損失を最小限にすることは可能である。
展 開 2	・マス・メディアでは、「現在、人々はいろいろな工夫をしている」ことが報道されている。それは、持続可能な発展の思想に現れている。その思想の事例を考えなさい。  ・これらの工夫は、どのように持続可能な発展を実現するのか。	・読むと討論	・地球を愛するのは、人類自身を愛することでもある。地球上の生き生きしている生物や山河があるからこそ、人類は代々生存・発展することができる。  ・チベットカモシカの保護、野生動物保護地、自然保護区、砂漠の整理、植樹すること、節水運動、排出ガスの削減、ノンフロン冷蔵庫などは、持続可能な発展の工夫の例である。

5.2 「問題解決学習」授業例の分析

(1) 問いの構造

課題「空気を浄化して、環境を保護する」の問いの構造は、以下の図5のようにまとめることができる。

本課題では、まず Q 2 で「どうして人々は、大気汚染問題を深く注目しているのか」という問題を提起し、Q 3 「今まで世界範囲でどのような大気汚染事故があるか」を生徒に考えさせる。次に、Q 4 「大気汚染の源は何か」を児童に討論させ、Q 5 「大気汚染は人類生活にどのような影響を与えるのか」を導かせる。その後、Q 6 「科学技術の発展に伴い汚染はどうしたらよいか」を考えさせ、すなわち、児童の生活に近い車、エアコン、冷蔵庫の利便性と汚染の両面性を討論させことを通して、Q 7 「大気汚染を解決するために、我々はどうしたらよいか」を導かせる。さらに、課題 1～5 までの全体で学習した内容に基づいて、全体の MQ 「持続可能な発展のために、どうしたらよいか」を考えさせる問いの構造となっている。

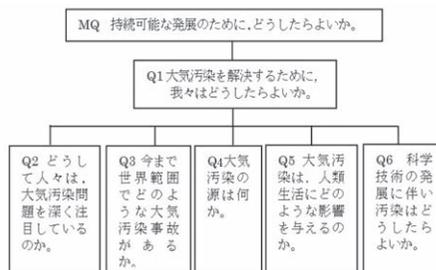


図5. 「空気を浄化して環境を保護する」の問いの構造

(2) 知識の構造

図6に示しているように、本課題の知識の構造は、問いの構造に対応している。本課題では、まず A 2 で「大気汚染問題は、厳しくなっている。」という事実的な知識を児童に認識し、その次に A 3 と A 4 では、大気汚染の典型例及び大気汚染の源に関する知識を生徒に理解させる。A 5 で大気汚染が人類の生活や健康に与えている悪い影響を明らかにする。さらに、車、

エアコンなどの事例の討論を通して、科学技術の発展に伴い汚染の改善策である A 6「人類は、知恵がある動物である。前に向かって進歩続けると同時に、大気汚染問題の防止や改善のために、自分の行動をも制約するべきである。」ことを明確にする。最後に、全体の MA として「野生動物保護地、自然保護区、砂漠の整理、植樹すること、節水運動、排出ガスの削減、ノンフロン冷蔵庫の使用など持続可能な発展の工夫が必要である」を認識するという知識の構造になっている。

### 5.3 「問題解決学習」授業例の特色

以上紹介してきた主題3「地球のガードマンになろう」の課題5「空気を浄化して、環境を保護する」に見られる「問題解決学習」の単元の特色は、以下の4点にまとめることができる。

第1に、児童が大気汚染のような実際に直面してい

る社会問題を取り上げていることである。

第2に、主に「どうしたらよいか」という問いで、それらの社会問題の解決策を探っているような構成になっていることである。

第3に、教科書と資料の読み解きや討論を中心的に展開している。児童の活動は多様である。調査、見学、議論、交流、グループの共同学習など多様な学習活動が取り入れられている。

第4に、単元全体の「持続可能な発展を実現するために、人類はどうしたら良いか。」というMQを解決するために、水資源問題、砂漠化問題、ゴミ問題、大気汚染問題などの多様な視点から、児童に環境問題を分析させることである。多角的に解決方法を考えさせるような学習過程が組織されている。

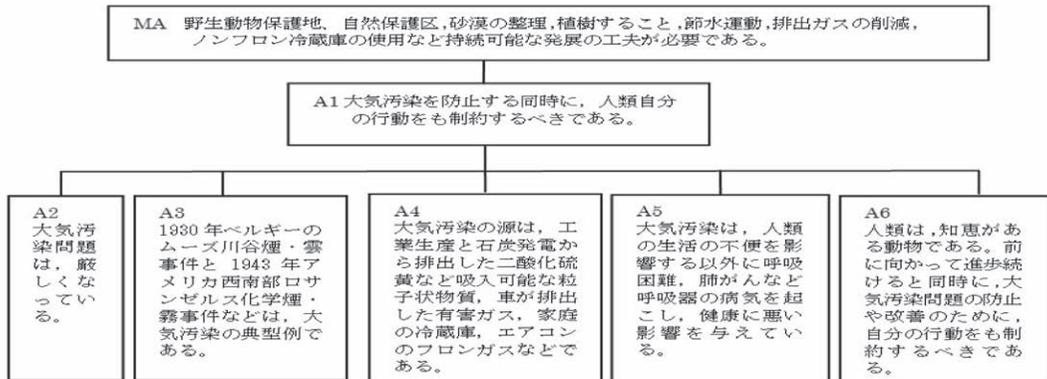


図6. 「空気を浄化して、環境を保護する」の知識の構造

## 6. おわりに

### —授業論改革の特質と意義—

以上、北京版教科書及び教師用指導書における「体験学習」「探究学習」「問題解決学習」の典型的な授業例を分析してきた。これらの分析をまとめると、北京版教科書に見られる小学校社会科授業論改革の特質としては、大きく4点にまとめることができる。

第1は、北京版教科書の社会科授業では、「体験学習」「探究学習」「問題解決学習」という3つ授業論が取り入れられていることである。

第2に、問いの構造の分析からもわかるように、次のような発問方式が基本となっていることである。すなわち、「体験学習」では、「どのように」「どのような」、 「探究学習」では、「なぜ」「どうして」、 「問題解決学習」では、「どうしたらよいか」といった問いによって構成されている。

第3に、各単元の中で、「体験学習」「探究学習」「問題解決学習」が相互に関連しながら学習が展開するように構成されていることである。例えば、主題「人類は土地で耕作する」では、農業生産過程の体験、農業経営の探究、農業分布の探究、環境問題の解決などの要素を取り込んで、全体的に「体験学習」「探究学習」「問題解決学習」3つの授業論をすべて取り入れた単元展開となっている。

第4に、発達段階を配慮して、中学年では「体験学習」を中心に、高学年には「探究学習」「問題解決学習」を中心に構成されていることである。このような構成となっているのは、発達段階に応じて、質の高い学習方法を採用していると考えられることである。

このような授業論は、いずれも従来の「単一的な学習方式、知的に面白くない授業の克服」「児童・生徒の創造力および実践能力の育成が困難」といった課題を克服するために取り入れられていると考えることが

できる。このような学習方式は、自主的な学習能力を高めると同時に、児童の問題解決能力及び意思決定力の形成にも有効であると考えられる。

なお、本研究は、北京版教科書を取り上げ中国における社会科授業論改革の一事例を分析したものにとどまっている。今後は、人民教育出版社教科書、江蘇教育出版社教科書など他のより多くの教科書も取り上げて分析を行い、中国社会科学授業論改革の全体像を明らかにしていきたい。

## 【註】

- 1) 「教学大綱」は、1990年代中国小学校の学習指導要領である。
- 2) 任長松 (2005) 『高校新課程と探究式学習』天津教育出版社、p. 3より抽出した。
- 3) 「品德と社会」課程標準 (2011年版) に基づく教科書がまだ発行されていないため、本研究では2002年版教科書を中心に分析する。
- 4) 本研究で分析した授業例は、北京版教科書の教師用指導書の付録に、編集者が「体験学習」「探究学習」「問題解決学習」の典型的な授業例であると示したものである。
- 5) 中国国家教育部「品德と社会」課程標準 (2003年版) p. 5より、抽出する。
- 6) 北京版教科書教師用指導書4学年 (下) より抽出し、作成したものである。

- 7) 同教師用指導書6学年 (下) により抽出し、作成したものである。

## 【引用・参考文献】

- ・木全清博 (2000) 「日本の中国社会科学研究史—1947～1999年—」『滋賀大学教育学部紀要50号』 pp.57-66.
- ・沈晔敏 (2005) 「中国の道徳・社会科教育の再編成における『公民意識』『公共意識』の形成—『品德と社会』教科書 (上海) を中心に—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』45巻 pp.257-266.
- ・許芳 (2007) 「1990年代から中国における社会科教科書づくりとその展望—授業づくりの視点から—」『早稲田大学教育学研究科紀要』15号.
- ・蔡秋英 (2008) 博士論文『現代中国における社会系教科教育課程改革に関する研究—「思想政治教育」から「公民教育」—』広島大学提出.
- ・中華人民共和国教育部 (2002) 『品德と社会課程標準』
- ・高峽、趙亜夫 (2003) 『新課程と教学の探索』北京師範大学出版社.
- ・高 峽 (2008) 『品德と社会—教師用指導書—4 学年～6 学年』北京師範大学出版社.
- ・郭雯霞 (2005) 『中日小学校社会科における比較研究』民族出版社.

(主任指導教員 小原友行)